

⑪ 自らの命は自らで守る!! — 全員にホイッスル配布 —

上吉野町内会自主防災組織（上越市）

団体概要

設立年度：平成20年度
人口：205人
世帯数：100世帯
（ともに平成23年6月30日現在）



応急手当講習会（心肺蘇生法）の様子

地域の状況

地理的状況：平野部
地域の概況：市内中心部より約6kmほど東に位置し、北側の保倉川と南側の国道253号線に挟まれた田園地帯
過去の災害：特になし

○組織結成の経緯

（結成までの経緯）

- 市からの勧めもあり、以前から結成を考えていた現本部長が町内会長となったことを契機に、自主防災組織の必要性などを住民に説明、理解を得る。

（結成の際に苦労、工夫したこと）

- 住民の安否確認に必要な、組織全員の名簿を作成するにあたり、個人情報との関係もあることから、組織の防災担当者が各世帯を回り、名簿の必要性を説明。任意の提出を求めたところ、全世帯が協力してくれた。

（行政の関わりなど）

- 地区の町内会長連絡協議会などへ出向き、自主防災組織結成に向けた説明会などを実施。平成20年度、当該地区を学区とする小学校で市総合防災訓練を実施したことにより、当該地区の各組織（当団体を含む）の結成が加速した。

○特徴的な取り組み内容

（自主防災組織活動の詳細な内容）

- 今年度、組織の全員にホイッスル（救助用の笛）を配布。（※家屋倒壊で身動きが取れなかった場合など、自分の位置を周りの人に知らせるため）
- 毎年度、2回の訓練を実施。避難経路、要救助者の有無、火災発生場所などを当日まで周知せず、毎回想定を変えて実施。
- 町内にある特別養護老人ホーム（AEDあり、看護師常駐）と防災相互協定を結び、災害時に資機材、人員及び施設利用など、相互に協力することとしている。

（避難計画）

- 五つの組に分かれ、一次避難場所へ避難する。全組が同一のルートを通り、避難途上で互いに他の組を確認し合うことにより、他の組が孤立した場合などの発見を早める。

（行政の関わりなど）

- 組織からの依頼もあり、訓練実施時は市職員が出向し訓練講評を行っている。



一次避難場所への集結の様子



初期消火訓練（消火器取扱）の様子

○組織の形態

本部長（町内会長）－ 副本部長（町内会副会長）－ 防災委員 －

各専門班（連絡、救護、避難誘導、警備・消防、炊出し）－ 組員

○活動の成果や問題点など

【よかった点など】

- 定期的な訓練の実施により、各個人の防災意識が高揚し、以前よりも地域（隣り近所）のまとまりが向上し、訓練及び町内会行事への参加率が上がった。

【苦労した点など】

- 平日の昼間などに災害等が起こった場合、組織の中心となる防災担当がおらず、組織として機能するののかとの不安の声が多かった。このため、60歳代の消防団OB3名に再入団してもらい、それぞれの防災に対応する感覚を取り戻すとともに、手薄な日中の初動体制を確立した。

（行政の関わりなど）

- 訓練活動費（炊出し訓練、消火器取扱訓練など）に補助金を交付している。

○活動の課題や今後の取り組みの予定

【課題となっていること】

- 全員の訓練参加が望ましいが、できるだけ多くの方から参加してもらいたい。また、災害時要援護者を安全に避難させる実動訓練ができない。（※寝たきりや足腰が悪く参加してもらえず）

【課題解決のための取り組み計画】

- ホイッスルを配布したように、各個人のさらなる防災意識を高揚（自らの命は自らで守る）させ、訓練内容（夜間訓練、雪中訓練）を検討し、町内会行事（盆踊り、さいの神）との連携を図り訓練参加率を向上させる。

（行政の関わりなど）

- 消防署、地元消防団などと協力し、引続き訓練指導にあたる。また、資器材整備にかかる経費の一部を補助することにより、地域防災力のさらなる向上を図る。